

教育委員会点検・評価報告書

(令和4年度対象)

令和5年8月

津島市教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	2
3	点検及び評価の方法	2
(1)	点検及び評価の視点	2
(2)	学識経験者の知見の活用	2
II	教育委員会の点検・評価	3
1	教育委員会の活動	3
(1)	教育委員会の会議の運営に関すること	3
(2)	教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	3
(3)	教育委員会と事務局との連携	3
(4)	教育委員会と市長の連携	3
(5)	学校及び教育施設に対する支援・条件整備	3
○	担当課による評価	3
2	教育委員会が管理・執行する事務	4
(1)	教育行政の運営に関する基本方針を定めること	4
(2)	教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	4
(3)	教育委員会の所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関すること	4
(4)	教育予算その他議会の議決を経るべき議案に関すること	4
(5)	津島市小中学校長会議に関すること	7
(6)	津島市立小中学校の2学期制に関すること	7
○	担当課による評価	7
3	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	9
(1)	学校教育課主要事業	9
①	いじめ問題対策委員会委員報酬	9
②	デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業	9
③	学校施設環境整備事業	10
④	小中学校修繕事業（主な修繕事業）	10
⑤	地域学校協働本部事業補助金	10
⑥	教育支援センター事務	11
⑦	学校配置職員の充実	11
⑧	学校図書館図書整備事業	11
⑨	キャリアスクールプロジェクト推進事業（職場体験）	11
⑩	就学助成事業	12

⑪ 外国語教育の充実（外国語教育・国際交流事業）	12
⑫ 総合的な基礎体力向上事業	13
⑬ 防災教育事業	13
⑭ 「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定」	13
⑮ 給食献立コンクール事業	13
⑯ 学校給食用物資選定会の実施	14
⑰ 給食費の未収金対策	14
⑱ 単独調理場の改修工事	14
⑲ 教職員の働き方改革	14
○ 担当課による評価	14
(2) 社会教育課主要事業	17
① 生涯学習推進事業	17
② 家庭教育推進事業	17
③ 青少年事業	17
④ 郷土の歴史的遺産活用事業	18
⑤ 文化財の修理・保存補助事業	18
⑥ 放課後子ども教室推進事業	19
⑦ 公民館事業	19
⑧ 生涯学習センター管理・運営事業	20
⑨ スポーツ大会・スポーツ教室事業	20
⑩ スポーツフェスティバル事業	20
⑪ 総合型地域スポーツクラブ活動補助事業	20
⑫ 各種団体への行政関与の見直し事業	20
⑬ 指定管理者導入施設	21
○ 担当課による評価	21
III 学識経験者の意見	23

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、令和4年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

結果を公表することにより、市民の皆様には教育に関する事務の管理及び執行の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開等に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図っていきます。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の対象

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条及び第 22 条に規定する教育委員会及び地方公共団体の長の職務権限について、令和 4 年度の部方針書に位置づけて実施した施策・事業等の実施状況を点検及び評価の対象としています。

3 点検及び評価の方法

(1) 点検及び評価の視点

教育委員会議の開催など教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、施策・事業等については、妥当性及び有効性等の視点から実施状況を点検し、課題等を踏まえた今後の取り組みの方向性を明らかにしています。

(2) 学識経験者の知見の活用

教育委員会の活動状況や施策・事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取り組みに向けた活用を図るため、前蟹江小学校校長の高橋央樹氏(津島市在住)、名古屋女子大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師の三輪昭子氏の 2 名から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

Ⅱ 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の会議の運営に関すること

教育委員会の会議については、毎月1回「定例教育委員会」を開催した。

(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるようにするため、ホームページ等を活用し、開催結果を公開し、開かれた審議を進めた。

(3) 教育委員会と事務局との連携

教育委員会の招集告示は委員会の1週間前としている。会議資料の提供は、個人情報が多く含まれていることから、当日配付することとしている。

(4) 教育委員会と市長の連携

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成27年度から地方公共団体の長と教育委員会で構成する総合教育会議の設置が義務付けられた。これを受け、総合教育会議を年2回開催した。

また、市長部局が開催する行政経営会議、部課長連絡会議に参加した。

(5) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備

5月定例教育委員会に学校訪問等参加計画書（前期・後期）を示し、計画訪問ができるよう調整している。

○担当課による評価

- (1) 定例教育委員会を年12回実施した。
- (2) 定例教育委員会の議事録をホームページに掲載し広く情報発信を行った。
- (3) 個人情報の取り扱いに留意し定例教育委員会を開催した。
- (4) 市長と連携して、総合教育会議を開催し、「デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業」の取組や体力向上に関する取組、次年度予算説明を議題として、活発な意見交換を行った。

市長部局との会議により連絡、協調が図られた。今後も、各小・中学校

の教育活動の現状を把握し、教育の振興を図るため総合教育会議を毎年複数回開催する必要がある。

- (5) 令和4年度学校訪問は8小学校、4中学校で実施することができ、委員により学校運営状況を確認することができた。特に、1人1台タブレット導入によるICT教育の展開と対話的な授業づくりについて参観することができた。

2 教育委員会が管理・執行する事務

(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること

基本方針は教育委員会の部方針書に位置づけて設定している。具体的には、学校施設の管理運営、安全・安心な学校給食の提供、学習活動の拠点整備、教育組織の適正運営、郷土の歴史・文化への関心の向上、生涯学習機会の充実等である。

(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること

規則の一部改正2件、規程の一部改正1件、規程の廃止1件を原案のとおり承認した。

(3) 教育委員会の所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関すること

各委員の選任について、任命4件、委員の委嘱7件を原案のとおり承認した。

(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に関すること

定例教育委員会に、各議会における補正予算について報告を行った。

<6月補正予算>

・国際理解教育事業	677千円
・地方創生子どもの体力向上事業	8,576千円
・デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業(小・中学校)	80,565千円
・蛭間小学校屋内運動場長寿命化改修工事実施設計	8,811千円
・小学校消火設備等改修設計<西小学校・神守小学校>	1,071千円
・小学校LED照明導入事業	734千円

・神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事実施設計	16,984 千円
・中学校消火設備等改修設計<暁中学校>	536 千円
・中学校LED照明導入事業	574 千円
・堀田家住宅屋根廻り修繕事業	237 千円
・文化遺産ナビスタンプラリー事業 (津島市制施行75周年記念事業)	482 千円
・放課後子ども教室活動支援委託事業	1,182 千円
・デジタル田園ロボット・プログラミング教育事業(放課後子ども教室)	3,941 千円
・地方創生子どもの読解力向上事業	16,502 千円
・図書館修繕事業(浄化槽等修繕)	2,120 千円
・プロランナー神野大地選手ランニング教室事業	681 千円
・葉苺スポーツの家トイレ改修工事	16,775 千円
◎新型コロナウイルス感染症対策事業	
・トイレ等自動水栓整備事業	
堀田家住宅	1,210 千円
児童科学館	1,077 千円
市立図書館	403 千円
神島田公民館	445 千円
生涯学習センター	4,444 千円
・放課後子ども教室空調設備修繕事業	2,251 千円
・児童科学館修繕事業(喫茶室全熱交換器取替修繕)	1,834 千円
・器具購入費(検温機能付顔認証リーダー)	
生涯学習センター	72 千円
錬成館、葉苺スポーツの家	143 千円

<11月補正予算(臨時)>

・小中学校スポットエアコン整備事業	167,944 千円
(小学校) 95,968 千円 (中学校) 71,976 千円	

<12月補正予算>

・人件費(減額補正)	△3,300 千円
(教育総務費・小学校費・中学校費・社会教育費外)	
・報酬	1,063 千円
(教育総務費・小学校費・社会教育費外)	
・光熱水費(小中学校)	45,782 千円

	(小学校) 31,086 千円	(中学校) 14,696 千円	
・光熱水費 (学校給食調理場)			24,639 千円
・通信運搬費			1,052 千円
	(小学校) 560 千円	(中学校) 492 千円	
・燃料費			1,057 千円
	(小学校) 641 千円	(中学校) 416 千円	
・給食用賄材料費			4,534 千円
・燃料価格高騰に伴う光熱水費増額事業			
堀田家住宅等			55 千円
神島田公民館			160 千円
生涯学習センター			7,636 千円
・燃料価格高騰に伴う市立図書館指定管理者支援事業			4,009 千円

< 3月補正予算 >

・デジタル田園都市国家構想推進交付金 (財源更正減額)			△2,919 千円
・地方創生推進交付金 (財源更正減額)			△12,539 千円
	(学校教育課・社会教育課)		
・国際理解教育事業 (減額補正)			△1,681 千円
費用弁償、外国青年招致事業負担金			
・デジタル田園ロボット・ブロック			
プログラミング教育事業 (減額補正)			△5,838 千円
備品購入費、デジタルプログラミング機器設定委託料			
・蛭間小学校屋内運動場長寿命化改修工事実施設計 (減額補正)			△3,626 千円
・学級増に伴う教育環境整備事業 (小学校) 備品購入費			1,492 千円
	(南小学校・神守小学校・蛭間小学校)		
・要・準要保護就学援助費 (小学校分) (減額補正)			△8,951 千円
・特別支援就学奨励費 (小学校分) (減額補正)			△1,227 千円
・神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事実施設計 (減額補正)			△6,988 千円
・要・準要保護就学援助費 (中学校分) (減額補正)			△8,878 千円
・特別支援就学奨励費 (中学校分) (減額補正)			△613 千円
・放課後子ども教室推進事業費 (減額補正)			△2,266 千円
・地方創生子どもの読解力向上事業 (減額補正)			△6,816 千円
・プロランナー神野大地選手ランニング教室事業財源更正			
(元氣な愛知の市町村づくり県補助金			332 千円)

・スポーツ推進委員報酬減額（減額補正）

△737 千円

（５）津島市小中学校長会議に関すること

津島市立小中学校の教育振興・発展を図ることを目的として、教育委員会主催で年 11 回の定例会議を開催した。

（６）津島市立小中学校の２学期制に関すること

津島市教育委員会は、行事の削減・見直しを行い、授業時間数を確保するとともに、教師が児童生徒と接する時間を増やし、学習・生活面で個々の児童生徒への支援を充実させる目的で平成 19 年度から本格的に 2 学期制を導入している。

○担当課による評価

（１）部方針書に基づく基本方針の施策目標及び方針

◎学校教育課

・特色ある教育の推進

基礎学力の向上が求められる中、子どもたちが楽しく学び、学習の意欲を高める教育が求められており、ICT（情報通信技術）教育の強化による効率的な教育や子どもたちの興味を引く教育を進めた。また、学校を拠点とした地域との連携・協働により、子どもを地域と一緒に育てていくため、各学校・地域において地域学校協働活動やコミュニティースクール（学校運営協議会）を、学校や地域の実情や特色に応じて、創意工夫をしながら進めた。コロナ禍の中、防災学習・領事館と連携した国際理解教育・ふるさと学習を推進した。

・心の教育推進

心理的・情緒的な要因により、不登校状態にある児童生徒及びその保護者を対象として、相談・助言・指導を行った。また、学校復帰を支援する教育支援センター（２か所）と校内教育支援センター（ほっとルーム）（神守中）にて、きめ細かな不登校対策事業を行った。

・安全・安心な教育環境の整備

学校施設の環境整備・有効活用を図るなど、必要な修繕等を計画的に行う必要がある、津島市学校施設長寿命化計画に基づき、必要な修繕及び整備を進めた。

◎社会教育課

・郷土の歴史・文化への関心向上

文化財保護への理解と郷土の文化、文化財への関心を高めてもらうため、新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながら、文化遺産や郷土資料等の情報発信とともに、堀田家住宅での企画展の実施、歴史・文化学習事業の実施等、歴史や文化を身近に感じてもらう機会の創出に努めた。

・生涯学習の推進

「生涯学習ガイド」を発行し、市民が活用しやすい学習情報を提供した。また、新型コロナウイルス感染症予防対策をとりつつ、市民大学講座や文化祭美術展の開催に努めた。

・生涯スポーツの推進

各種スポーツ大会、スポーツ教室等について、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら開催することができた。またスポーツ施設の整備やスポーツ団体の支援を継続的に行い、生涯スポーツの推進に努めた。

・青少年の健全育成

放課後子ども教室に参加を希望する子どもたちが、安心して過ごす場を確保するよう努めた。

7月に愛知県青少年育成県民会議が主唱する青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動の街頭啓発活動を、第72回社会を明るくする運動（主催：津島保護区保護司会、共催：津島市更正保護女性会）と合同で実施した。また、10月にも文化祭会場にて啓発活動を実施した。

(2) (3) (4) 教育委員会規則及び規程の制定・改廃、所管に属する各種委員会委員任命又は委嘱に関することについて、定例教育委員会にて審議、承認を行った。また、3月、6月、9月、12月の定例市議会の内容は、直近の定例教育委員会で報告した。

(5) 津島市小中学校長会議の主な会議内容

- ・教育長から学校経営管理に関する内容について指示を行った。
- ・様々な教育課題に対する対応等について協議を行った。
- ・教育委員会事務局から教育行政の情報提供を行った。
- ・教育委員会関係の予定について伝達を行った。
- ・市主催の事業への参加について依頼を行った。

なお、年度初めの4月、年度末の3月は、教頭も参加し、円滑に学校経営が進められるように会議を行った。また、事前に教育委員会指示内容の検討を行うための役員会を開催した。

(6) 2学期制実施の効果

- ・授業や活動の時間が増え、特に長期休暇の前に教師は児童生徒とじっくり向き合うことができ、相互理解が深まり学校生活全般の向上が見られている。
- ・ICTを活用した学習、外部講師の活用、体験学習や教育相談活動が充実し、基礎学力の定着や健全育成につなげることができている。
- ・各教科の達成度を評価するにあたり、長いスパンで児童生徒の学習活動を観察できるため、学習指導要領の趣旨のもと設定された3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）での評価を、より適切に進めることができている。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 学校教育課主要事業

- ① いじめ問題対策委員会（委員報酬） 決算額 26,800円
いじめ問題対策委員会（令和5年1月25日開催）を開催した。

② デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業

報償費	決算額	109,500円
プログラミング教室事業委託料	決算額	2,024,000円
デジタルプログラミング機器設定委託料	決算額	2,640,000円
器具購入費	決算額	69,915,735円

全小中学校を対象に、AI機能を持ったプログラミング可能な人型ロボット及びブロックを導入し、プログラミング教育環境を整備した。

・ICT支援員設置事業（ICT支援委託料）

ICTによる協働的な学びを実現するため、その技術や活用に知見を有するICT支援員を市独自で配備を行い、ICTを活用した授業等を教師がスムーズに行えるようサポートした。

市内8小学校委託料	決算額	8,363,520円
市内4中学校委託料	決算額	2,090,880円

③ 学校施設環境整備事業

蛭間小学校屋内運動場長寿命化改修工事実施設計委託料	決算額	5,184,300 円
神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事実施設計委託料	決算額	9,995,700 円
LED器具借上料（小学校費）	決算額	638,000 円
LED器具借上料（中学校費）	決算額	319,000 円
器具購入費（小学校費）	決算額	94,776,290 円
	（うちスポットエアコン	83,512,000 円）
器具購入費（中学校費）	決算額	65,400,306 円
	（うちスポットエアコン	62,634,000 円）

蛭間小学校及び神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事の実施設計を行った。全小中学校の老朽化した既存照明器具をLED照明に切り替え、教育環境の改善を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策として、全小中学校にスポットエアコンを整備した。

④ 小中学校修繕事業（主な修繕事業）

・西小学校自家用電気工作物修繕	決算額	2,310,000 円
・東小学校軒裏コンクリート爆裂剥落防止ネット設置修繕	決算額	1,625,800 円
・神守中学校北館西渡り廊下2階修繕	決算額	1,279,520 円
・暁中学校自家用電気工作物修繕	決算額	2,156,000 円

児童生徒の安心・安全な学習環境の整備を実施した。

⑤ 地域学校協働本部事業（補助金） 決算額 1,458,000 円

地域の子どもは地域で育てることを基本とし、学校の求めに応じて、地域のボランティアが学校を支援する活動に参加できるしくみづくりを推進した。

・地域学校協働本部	平成30年度	全小中学校	設置
・コミュニティスクール（学校運営協議会）	平成30年度	神守中学校	設置
	令和元年度	南小学校	設置
	令和2年度	神守小学校・高台寺小学校・暁中学校	設置
	令和3年度	東小学校・神島田小学校	設置
	令和4年度	天王中学校・藤浪中学校	設置
		西小学校・北小学校・蛭間小学校	設置

- ⑥ 教育支援センター事業 決算額 10,799,010 円
 心理的・情緒的な要因により、不登校の状態にある児童生徒及びその保護者を対象として、適正な相談・助言及び指導を行い、学校復帰を支援した。また、神守中学校に校内教育支援センター（ほっとルーム）を開設した。
 指導員 8 人配置 令和 4 年度教育支援センターの利用児童生徒数 34 人

- ⑦ 学校配置職員の充実 決算額 101,120,993 円 $\left[\begin{array}{l} \text{小学校 } 70,154,351 \text{ 円} \\ \text{中学校 } 30,966,642 \text{ 円} \end{array} \right]$
 学校管理業務・給食業務のため、校務員及び配膳パート職員を配置した。また、教育支援を要する児童生徒への指導を充実するため、市雇用の支援員を市内 12 小中学校へ配置した。
 校務員 17 人（再任用職員 1 人を含む。）、配膳パート 19 人、
 学校支援員 39 人 計 75 人（再任用職員 1 人を含む。）
 （令和 4 年 5 月 1 日現在）

- ⑧ 学校図書館図書整備事業 決算額 6,670,327 円 $\left[\begin{array}{l} \text{小学校 } 3,604,805 \text{ 円} \\ \text{中学校 } 3,065,522 \text{ 円} \end{array} \right]$
 子どもたちの豊かな感性や情緒を育み、健やかな成長に資する図書を提供するため、学校図書館の蔵書数を学校図書館図書基準に見合うよう整備を進めている。

令和 4 年度小・中学校蔵書数（令和 5 年 3 月 31 日現在）

東小学校	13,073 冊
西小学校	11,065 冊
南小学校	9,133 冊
北小学校	10,055 冊
神守小学校	10,011 冊
蛭間小学校	8,966 冊
高台寺小学校	8,802 冊
神島田小学校	10,331 冊
天王中学校	11,540 冊
藤浪中学校	15,663 冊
神守中学校	14,138 冊
暁中学校	13,300 冊

- ⑨ キャリアスクールプロジェクト推進事業（職場体験） 決算額 125,000 円

若年層の進路意識の希薄さや勤労観の未発達が大きな社会問題となっている。その対策として、生徒が職業の魅力を感じ、望ましい勤労観や職業観を醸成できるように、職場体験学習を核とした中学校1年生から3年生までの系統的なキャリア教育のさらなる推進を図る目的で実施した。

令和4年度は3年ぶりに事業所への派遣を実施することができた。

中学校名	期 間		参加生徒数	協力事業所数
天王中学校	10月26日～10月28日	3日	108人	35
藤浪中学校	10月19日～10月21日	3日	126人	40
神守中学校	11月30日～12月2日	3日	178人	53
暁 中学校	6月14日～6月15日	2日	102人	36

⑩就学助成事業

要・準要保護就学援助費
 小学校分 決算額 9,622,128円
 中学校分 決算額 13,624,048円

小中学校の児童生徒の保護者を対象に、就学が困難な方に対し、就学援助費を補助した。

令和4年度就学援助受給者実績

就学援助受給者 (人)				児童生徒数 (人) (学校基本調査 令和4年5月1日)			全体に対する受給率 (%)		
新小学校 1年生	小学校 (ア)	中学校 (イ)	計 (ア) + (イ)	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
13	316	180	496	2,614	1,609	4,223	12.08	11.18	11.74

私立高校授業料補助事業 決算額 3,090,000円

私立高校の保護者負担の軽減をはかり、家庭環境に関わらず、誰もが学校を選べるよう私立高校授業料補助(1人1万円)を実施した。

(令和4年度実績 309人)

⑪外国語教育の充実(外国語教育・国際交流事業) 決算額 26,598,106円

外国人語学講師(6人)を配置し学校に派遣を行った。また、例年、国際文化の交流を深めていくため、県内の領事館を通じた国際理解教育を実施している。令和4年度については、8小学校にて交流事業を実施した。

市独自で日本語教育指導員を配置し、外国籍の児童生徒のための支援を行った。

令和4年度

小学校名	交流領事館	交流日
東小学校	ペルー	令和5年2月7日
西小学校	ブラジル	令和4年12月5日
南小学校	フィリピン	令和5年2月24日
北小学校	大韓民国	令和4年11月24日
神守小学校	カナダ	令和5年1月18日
蛭間小学校	トルコ	令和5年1月31日
高台寺小学校	中華人民共和国	令和4年9月15日
神島田小学校	アメリカ合衆国	令和4年11月30日

令和3年度 蛭間小（カナダ）、高台寺小（大韓民国）

令和2年度 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

⑫総合的な基礎体力向上事業

基礎体力を向上し健康な身体を維持していくよう、体育の授業時間になわとびに取り組んだ。児童生徒は意欲的になわとびの技にチャレンジした。基礎体力向上のための取り組み（SKIP）を市内12小中学校で実施し、教員対象にサーキットトレーニング研修を行った。

⑬防災教育事業

「自分の命は自分で守る」を合言葉にし、令和4年度は神守中学校区において地域住民の協働による総合防災訓練を実施した。

各学校において、「家庭防災の日」の周知を行い、朝礼や朝の会、学級活動の中で日頃から防災意識を高める取り組みを行った。

⑭「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定」

津島市の郷土の歴史や文化を知るため、毎年1月に市内小学6年生全員が検定を受検している。令和4年度で13回目となった。この検定により津島市へのシティズンプライドが高まった。

⑮給食献立コンクール事業

給食献立コンクール事業を実施した。

応募総数 小学校 533点 中学校 362点 合計 885点

入賞作品12点を選び、給食の献立に採用した。

⑯学校給食用物資選定会の実施

学校給食用物資購入に際し、安全で良質な物資を安価に購入するため、毎月1回開催した。

令和4年度実績

開催数 11回（8月分を除く）

構成員（学校教育課長、給食調理場長、栄養教諭（学校栄養職員含む）5名、小・中学校給食主任3名、調理員2名の計12名）

年間取引金額 251,238,779円

⑰給食費の未収金対策

給食費の未納者に対し、督促状を送付し、徴収に努めた。また、平成22年度から29年度にかけての未収金のうち徴収不能と判断した金額を債権放棄し、不納欠損処分を行った。

令和4年度末（令和5年5月31日現在）未収金 73人 2,170,124円

不納欠損処分内訳

平成22年度	32,130円（2件）	平成23年度	11,340円（1件）
平成24年度	13,770円（1件）	平成25年度	72,090円（3件）
平成26年度	69,840円（2件）	平成27年度	85,680円（2件）
平成28年度	47,460円（1件）	平成29年度	48,960円（1件）
合計	381,270円（13件）	※件数は延べ数	

⑱単独調理場の改修工事

単独調理場である南小学校及び北小学校の給食室のトイレ改修及び手洗いの自動水栓化を実施した。

単独調理校トイレ改修及び手洗いの自動水栓化整備 決算額 1,161,089円

⑲教職員の働き方改革

自己の健康を維持し、多忙感を解消するため「定時退校日」、「目標退校時間」の設定に続き、年度当初の時間割の見直し（小学校では40分5時限、中学校では45分6時限）、部活動の時間の短縮を実施した。（早朝部活の中止、平日の週1日以上の休止）

○担当課による評価

- | |
|-----------------------------------------------------------------------|
| ① いじめ問題対策委員会を令和5年1月25日に開催し、現状の把握に努めることが出来たが、今後各学校においてきめ細やかな対策が必要である。 |
| ② 児童生徒が変化の著しい社会の中で自らの力で生き抜く力を付けるため、全小中学校を対象に、AI機能を持ったプログラミング可能な人型ロボット |

及びブロックを導入し、未来のデジタル社会を担う人材育成を図った。また、ICT支援員を市独自で配置し、ICT教育に関する教員へのサポートを積極的に支援した。今後について、令和2年度に立ち上げた1人1台タブレット利活用研究会を定期的を開催するなどし、情報共有を図りながらその積極的な運用に努めていく必要がある。あわせて次世代を見据えたプログラミング教育（プログラミングの授業研究会）を推進していくことが求められている。

- ③ 児童生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう、蛭間小学校と神守中学校屋内運動場長寿命化改修工事実施設計を行った。小中学校の老朽化した既存照明器具をLED照明に切り替え、教育環境の改善を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策として、全小中学校にスポットエアコンを整備した。次年度以降も学校施設長寿命化改修事業を計画的に実施する必要がある。
- ④ 児童の安心・安全な学習環境の施設整備を実施したが、継続的な取り組みが必要である。
- ⑤ 地域学校協働本部事業を推進し、保護者を含む地域住民が子どもの成長を支え、子どもも地域に愛着をもてるような教育環境づくりに努めた。今後については、全小中学校に設置されたコミュニティスクールを核にして、地域で子ども育てていく教育体制の構築に努めていきたい。
- ⑥ 教育支援センター登録者が学校へ復帰したり、定時制高校へ進学したりするなど、一定の効果を得ることができた。校内教育支援センター（ほっとルーム）を神守中学校に新設し不登校状態にある生徒を指導・支援した。今後もさらに教室と学校との連携を深め、市教育支援センターとして不登校の児童生徒にきめ細かい指導を行っていく。
- ⑦ 8小学校4中学校に校務員・配膳パート・学校支援員を配置することができた。
- ⑧ 学校図書館の充実は今後も課題であり、引き続き整備していく必要がある。また、貸出数を把握し利用状況を検討する必要がある。
- ⑨ 様々な職業に関心をもつとともに、体験への意欲を高めることができた。働く意義や仕事をすることの辛さなど職業に対する理解を深めるとともに、あいさつ、言葉遣い、態度など、人との接し方を振り返ることができ、社会の一員としての姿勢を学ぶことができた。
- ⑩ 就学助成事業として、経済的な理由で就学が困難な方に対し、就学援助費等の補助を実施した。また、私立高校授業料補助事業を実施することで、家庭環境に関わらず、誰もが学校を選べることについて一定の効果があった。
- ⑪ 他国の文化に触れる機会をもつことにより、国際感覚の醸成に努めた。外国籍の児童生徒のため日本語教室（F U J I C A）を支援した。

- ⑫ 子どもたちの体力は、低下傾向にあるため、継続して取り組んでいく必要がある。
- ⑬ 防災教育の必要性は年々高まってきており、日頃から防災意識を高める取り組みを地域・学校・家庭が一体となって取り組む必要がある。
- ⑭ 「郷土愛を育む 津島の達人ジュニア検定」を市内小学6年生全員に実施することで、郷土愛について学ぶ機会を提供することが出来た。
- ⑮ 「給食献立コンクール」の実施により、家庭の料理を家族と一緒に考え学校給食に生かすことで、より給食への関心が高まった。
- ⑯ 安全・安心な食材の確保ができ、おいしい学校給食の提供ができた。
- ⑰ 令和3年度比で 978,917 円の未収金の減少となっている。令和4年度に不納欠損処分を行い、未収金の一部を減少させたが、引き続き学校と協力し、督促状の送付をはじめ、催告書の送付、家庭訪問等を行う体制を構築し、さらに未収金の徴収に努めなければならない。
- ⑱ 単独調理場の南小学校給食室及び北小学校給食室のトイレ改修及び手洗いの自動水栓化をすることで、より安心安全でおいしい給食を提供することができた。
- ⑲ 教職員の働き方改革を推進することで、働き方、休み方について改善効果があったが、引き続き進めていく必要がある。

(2) 社会教育課主要事業

① 生涯学習推進事業

決算額 337,100 円

市民が活用しやすい生涯学習情報誌『生涯学習ガイド』を発行し、市の施設等に常置するとともに、ホームページに掲載した。

また、過去の受講者アンケートの回答をふまえ、大学等から講師を招いて、市民の学習意欲に応えるために市民大学講座を開設した。

テーマ	日時		場所	参加者
発見・発掘・発表にチャレンジ！自分の「見つけた！」を形にしてみよう	6月11日(土)	午前10時00分)	図書館	6人
	6月18日(土)			6人
	6月25日(土)	午前11時45分		5人
	7月2日(土)			5人

テーマ	日時		場所	参加者
試論・江戸時代の在郷町津島を考えるー空間・住民組織・生業(なりわい)ー	11月26日(土)	午前10時00分	図書館	20人
	12月3日(土))		21人
	12月17日(土)	午前11時45分		21人

② 家庭教育推進事業

決算額 62,000 円

令和2年度から重点地区に指定した神島田小学校区において、学校、家庭、地域の連携により、親子や子どもの異学年、また、世代間の交流を深める事業を実施した。

テーマ	日時	会場	受講者数
e ネット安心講座	6月22日(水) 9:30~10:55	神島田 小学校	25人
自分の気持ちを上手に伝えよう	12月7日(水) 13:15~15:15		25人
「生きること」被災地支援活動について	1月11日(水) 13:15~16:15		51人

③ 青少年事業

決算額 112,111 円

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により街頭啓発を縮小して開催した。

・7月に愛知県青少年育成県民会議が主唱する青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動の街頭啓発活動を、第72回社会を明るくする運動(主催:津島保護区保護司会、共催:津島市更正保護女性会)と合同で実施した。また、10月に文化祭会場にて啓発活動を実施した。

・様々な社会体験や自然体験活動を通して青少年の豊かな心を育むため、青少年活動を支援する団体、高等学校のクラブ等の協力で「つしまおやこワクワク体験活動フェスティバル！」を2月18日(土)に津島市文化会館大ホールにて開催し、10の出展団体、410名の参加があった。

④ 郷土の歴史的遺産活用事業 決算額 10,897,307円

市民が地域の文化や歴史的遺産に関心を持ち、地域の誇りとして保護・継承するとともに、新しい地域文化創造へと発展させるため、歴史・文化遺産ホームページ(津島市デジタル博物館)での文化財の紹介、新型コロナウイルス感染症対策をとった上で堀田家住宅の公開等を行った。堀田家住宅観覧者数の令和4年度実績は2,190人となった。企画展として「見て、ふれて、知る 津島の毛織」(4月～5月)、「天王祭展―掛軸の中の天王祭―」(7月～8月)、「ちりめん細工展」(10月/「ちりめん細工 なな草」との共催)、「ひなまつり展」(2月～3月)を開催した。

また、市内の文化遺産を紹介するアプリ「津島市文化遺産ナビ」を活用したデジタルスタンプラリーを10月から12月まで実施した。

歴史文化学習事業として、小学校4年生から6年生までを対象に、尾張津島天王祭について学習する「祭りを学ぶ」を愛西市教育委員会との共催で実施した。

・「祭りを学ぶ」実施状況

日にち	実施内容	受講者数
7月9日(土)	鉾持ち体験、「津島祭礼図屏風」(複製)の鑑賞等	34人
7月16日(土)	「車楽舟を組み立てよう！」(パズル工作)	34人
7月24日(日)	尾張津島天王祭朝祭の見学	34人

⑤ 文化財の修理・保存補助事業 決算額 4,887,000円

文化財の所有者、管理者、保存団体等に対する助言、文化財保存のための計画的な修理及び無形民俗文化財の保存活動を支援した。

(ア) 文化財保存事業費補助

・津島秋祭山車保存修理費補助

(イ) 尾張津島天王祭車楽舟行事保存事業費補助

(ロ) 無形民俗文化財保存事業費補助

(津島山車保存会、津島石採祭車保存会)

(エ) 重要文化財管理事業補助(津島神社本殿・楼門)

⑥ 放課後子ども教室推進事業

決算額 20,783,205 円

学校の余裕教室等を活用して、放課後における子どもの安全かつ安心な活動の場を確保し、地域の住民の参画を得ながら、さまざまな体験、交流、学習等の活動の機会を提供した。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施曜日を2～3のグループに分けることで、1日の参加人数を減らしつつも、なるべく多くの子どもたちが体験・学習・交流を行えるようにした。

また、各放課後子ども教室にパソコンやポケットWi-Fiなどを配備してオンライン環境を整え、オンラインを活用した交流等の促進を継続するとともに、地元企業と協働で地域を学ぶプログラムを作成し、1教室で実施した。

実施校	実施曜日			実施時間	活動場所	グループの定員(総数)	参加者数
	月・水	火・木	金				
東小学校	月・水	火・木	金	午後3時 (授業終了後) から 午後5時 まで	旧普通教室 (2室)	各40人 (80人)	23人 32人
西小学校	火・木	水・金	金		旧理科室	各25人 (50人)	23人 19人
南小学校	月・火	水・木	金		南棟1階 西側	各11人 (22人)	12人 11人
北小学校	月・火	水・金	金		視聴覚室	各25人 (50人)	7人 10人
神守小学校	月・火	水・木	金		旧図工室	各35人 (70人)	19人 11人
蛭間小学校	月・火	水・木	金		視聴覚室	各25人 (50人)	25人 24人
高台寺小学校	火・水	木・金	金		生活科室	各30人 (60人)	20人 28人
神島田小学校	火	水	金		体育館内 旧会議室	各10人 (30人)	9人 10人 11人

⑦ 公民館事業

決算額 3,211,779 円

神島田公民館では、参加者の席の間隔をとったり、机・椅子の消毒など感染対策を取りながら9講座を開催し、延べ909人が受講した。教室講座の作品展を小規模ながらロビーで行った。新規に子ども向けの「書き方・書道

教室」を開催したほか、民間企業との連携事業も進める事ができた。

公民館クラブ・同好会は、会員の年齢層も高く、5団体延べ1,329人の利用となった。また、官公署が主催する講座等の利用者数は延べ515人で、年間の利用者数は、合計で2,892人であった。

- ⑧ 生涯学習センター管理・運営事業 決算額 37,594,197円
誰もが気軽に利用し、スポーツ等に親しむことができる施設として、利用者の目線に立った、利用しやすく親しまれる施設づくりを進めた。年間で屋外施設は延べ19,778人、屋内施設は延べ36,727人が利用した。
- ⑨ スポーツ大会・スポーツ教室事業 決算額 3,916,111円
新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、様々な種目のスポーツ大会、スポーツ教室を開催することできた。
また新規事業として、津島市出身のプロランナー・神野大地選手をコーチに招き、市民を対象としたランニングクリニックを開催。親子49組98人、中学生以上42人が参加した。
- ⑩ スポーツフェスティバル事業 決算額 493,000円
誰でも気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションの場を提供することを目的とし、市民・スポーツ関係団体との協働により、市の一大スポーツイベントとして10月に開催。スポーツ推進委員会を中心に、スポーツ協会やスポーツ少年団等で構成する実行委員会を立ち上げ、その内容について検討を重ねた。
新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より開催時間を短縮して実施したが、889人（種目参加者延べ3,667人）もの方々が参加した。
- ⑪ 総合型地域スポーツクラブ活動補助事業 決算額 166,000円
生涯スポーツの実現に向け、就学前のお子さんから70代の方まで、さまざまな世代の方がそれぞれのレベルに合わせ、気軽にスポーツに親しめる機会を提供する活動を支援した。令和4年度登録会員数 203人。
- ⑫ 各種団体への行政関与の見直し事業
スポーツ協会は、平成25年度から生涯学習センター内に事務局を移設し自主運営を行っている。他の団体についても、それぞれ行政の関わりについて見直しを継続する。

- ⑬ 指定管理者導入施設 決算額 162,088,000 円
適正な管理運営及び施設利用者に対して満足度の高いサービスを提供するため、各施設等でモニタリングを実施した。

(ア) 津島市立図書館

貸出者数(65,275人)は前年度より2,982人減、蔵書冊数については令和4年度末で310,028冊(3,603冊増)、市内図書館利用カード登録者数は29,605人であった。

また、子どもの読解力向上事業の一環として、令和4年12月から電子図書館を導入した。令和4年度末での電子図書数は1,521タイトル、令和4年度中の貸出回数は348回、閲覧回数は782回であった。

(イ) 親愛集会所・永楽集会所

町内会等地縁の団体を管理者に選定し、地域住民の生涯学習、交流の場として地域の実情に即した管理運営を行った。

(ロ) 教育・体育施設及び都市公園

(錬成館、児童科学館、総合プール、市営球場、市営庭球場、葉苺スポーツの家、東公園)

健康づくりや体力づくり、生涯学習や市民の憩いの場として、安心安全な管理運営を行い、施設全体で年間約15万人以上に利用された。

○担当課による評価

- ① 「生涯学習ガイド」を発行し、市民が活用しやすい学習情報を提供した。また、大学と連携して講座を企画し市民大学講座を2講座を実施。市民ニーズにあった内容で実施することにより、受講者増加に努める必要がある。
- ② 神島田小学校区の家庭教育推進協議会の取り組みにより、家庭・学校・地域が協力・連携して「地域全体で子どもを育て・育む」意識の醸成を図る事業が実施できた。
- ③ 愛知県青少年育成県民会議と連携し、関係機関や団体の協力を得て啓発活動を年2回実施できた。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、街頭啓発ではなく、文化祭などの会場で啓発品を配布する形に変えて周知に努めた。
- ④ 堀田家住宅の公開は、名簿の記入や人数制限等、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施した。引き続き文化財の調査・保護・普及に努める必要がある。
- ⑤ 文化財の所有者、管理者、保存団体等に対して、助言や修理・保存に必要な費用の補助を行うことにより、文化財を保存するための計画的な修理及び無形文化財の保存活動を支援することができた。引き続き、適切な支援を行

っていく必要がある。

- ⑥ 放課後子ども教室は、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限される状況であったが、希望する子どもたちに学びを提供することができるよう、実施曜日を2～3のグループに分けて実施した。また、オンライン環境を整えたことにより、学校間の交流等や、スタッフ同士の情報交換の活性化を図った。今後も子どもの学びや活動の場として持続していく必要がある。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら公民館教室・講座を実施した。令和4年度は新しく2講座増やしたこともあり、参加者は昨年に比べて増加したが、受講希望者にリピーターが多いことが例年の課題である。
- ⑧ 誰もが快適に利用でき、スポーツ等に親しめるよう、老朽箇所の修繕等の施設整備を引き続き行っていく必要がある。
- ⑨ 感染対策を実施しながら日ごろの練習の成果を発揮する場や、選手同士の交流の場を創出することができた。また新規事業として、地元出身のプロランナー神野大地選手をコーチとして招きランニングクリニックを実施。現役のトップアスリートから直接指導が受けられる貴重な機会を提供することで、市民のランニング愛好者を増やし、健康づくりに寄与することができた。
- ⑩ スポーツフェスティバルは、日ごろスポーツに馴染みのない方や幅広い年齢層の方々に気軽にご参加いただけるスポーツイベントとして実施。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小開催としたが、3年ぶりの開催ということもあり、多くの方が来場しスポーツを楽しんだ。引き続き各実施団体と意見交換し、また参加者のニーズを踏まえながら、より良い企画を取り入れるよう努めていきたい。
- ⑪ 総合型地域スポーツクラブにおいて、さまざまな世代の方々にスポーツ活動の機会を提供した。今後も市民の健康保持・増進のため、クラブの支援を継続する。クラブでは次世代の人材育成や活動場所の安定した確保等が課題となっており、関係者と課題を共有し連携を密にしていく。
- ⑫ スポーツ協会のさらなる自立した運営を目指し、またスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブについても自立した運営を目指していく。
- ⑬ 図書館、スポーツ施設、集会所等の指定管理業務のチェックリストを作成し、モニタリングを実施するとともに定期的な打ち合わせ・情報交換を実施することにより市民満足度の向上に努めた。

Ⅲ 学識経験者の意見

教育委員会の活動状況や施策・事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に向けた活用を図るため、前蟹江小学校校長の高橋央樹氏、名古屋女子大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師の三輪昭子氏の2名から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

前蟹江小学校校長 高橋央樹氏

・全国初のAI機能を搭載した人型ロボット及びプログラミング可能なブロックの導入とそれを活用したプログラミング教育「TPP：津島プログラミングプロジェクト」は、導入規模（全小中学校に人型ロボット各21体、ブロック各21セット）や内容において国内最先端の教育事業であり、すばらしい取組である。トライ&エラーを繰り返しながら解決策を見つけ出していく学びの過程は、「楽しく役に立つ」ことが実感でき、コミュニケーション能力や論理的な思考力を養うとともに自ら課題解決に向かう力の育成にもつながっていくものである。積極的な活用を期待したい。

・プログラミング教育の取組においては、学校だけでなく放課後子ども教室においてもブロックを備え、子どもたちの興味・関心に応じて能力を伸ばすための環境整備を行っている点が大変よいと感じた。

・「領事館プロジェクト」は、国際交流の面だけでなく、違いを認め合いお互いを尊重する気持ちを育んだり、自分の住む地域のことを知り地域を大切に思う気持ちを育んだりする点においても大変有意義な取組である。小学校段階からこうした取組を行うことで、言語能力の伸長や異文化理解、国際的な視野の育成など多方面にわたる成果が期待できるので、今後もこうした交流を継続してほしい。

・海部津島地域は大規模災害への備えが特に必要な地域である。「自分の命は自分で守る」ことを柱とした防災学習の取組は年々充実してきているが、今後も地域・学校・家庭が一体となって防災学習を進めていくことが大切である。また、小中学生の多くが家庭で自分専用のスマホやタブレットを利用していることから、関係部署と連携して「つしま防災ポータル」に小中学生向けのページを設けたり、タブレットを使って「つしま防災ポータル」の活用講習を行ったりしていくことも効果的ではないかと考える。

・放課後子ども教室推進事業は、アンケート結果から家庭もとても満足していることがわかる。学校や家庭にはない居場所づくりとしての意義があり、今後もさらに推進して欲しい。

・総合型地域スポーツクラブ事業は、中学校部活動の地域移行における一つの

方策として注目されており、一層の拡充が期待される。移行に向けての課題の一つである指導者の確保については、地域に指導者募集をより広く周知する方策や指導者の人材登録バンクなど、埋もれている地域人材をより積極的に活用するための工夫を進めていくことが望まれる。

名古屋女子大学・名城大学・日本福祉大学・愛知大学 非常勤講師 三輪昭子氏

・例年、学びの環境、ソフト・ハード面ともに維持・向上に務められていることに感謝します。特に、児童生徒に安心・安全な学校生活が保障できるよう老朽化で改修の必要あるところ、また時機に見合った整備を計画的に実施予定であることを評価したい。

・令和4年度内はコロナ過で学習機会が失われてきた。その中で、「特色ある教育の推進」に努められ、地域、国際、生涯学習へのつながりを意識的に検討し、進められていることがわかった。グローバル化時代に生き、心の国際化を含め地域の国際化が強く望まれ、求められている。書で学ぶだけでなく、人から学ぶ対話の機会を作った「名古屋にある領事館（総領事館）を活用した国際交流活動」は評価に値する。多くの方が名古屋に領事館があることを知らず、またどんな役割をもっているのかについても知らない現状にあると思われるので、その点についての理解を得られる機会にもなる。（ちなみに、当該評価記述者も友人の米国人が領事館勤務にあった時期がある）中日新聞の毎週日曜日掲載の「なごやか外交」のコラムでも文化や外交官の人柄を垣間見ることはできるが、継続的で間接・直接を問わない交流は継続を期待したい。

・義務教育と地域社会との結びつきによって、子どもたちは安心して成長できる。しかしながら、守られるばかりでなく子どもたちが自己決定権を持ち、行動に移す機会も必要である。そんな場が期待できるところが居場所であると考えられる。北欧、中欧ではユースセンター（youth centre）が存在し、子どもたちのためのものなら子どもたちで決定させる習慣をもっていると聴く。子どもたちの居場所づくりのための「放課後子ども教室推進事業」の使い方次第で、子どもが子どもとしての人権、特に自己決定権の行使の意味と意義を学ぶ絶好の学習機会のように考える。すでに実施中かもしれないが、放課後に子どもたちが行動・活動したいことを子どもたちに決定権を少しばかり与えるという機会を投じることで、事業の中に取り入れているのではと、想像している。

・津島市は歴史ある街として、ユネスコ無形文化遺産「尾張津島天王祭」を始めとした伝統行事、歴史的建造物が存在する。それを活かし、守ることは地域住民だけでなく、そこに関わる人々もともに歴史を守っていく責任がある。そのために様々な手法で「津島の達人ジュニア検定」、郷土の歴史的遺産活用など

の文化財の修理・保存補助事業はなくてはならないものである。経費的な課題はあるかもしれないが、他の事業との関連性を持たせるなどの工夫で継続して実施していくことが肝要である。ご存知のように **SDGs** のことが言われて数年を経た。未来社会を創造するためには郷土に残るものを新しい世代によって未来に必要なようにしていくために現世代は責任をもって対応しなければならないと考える。世代間の平等・公正その対応のためにも継続的努力を続けてほしい。